



平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月14日

上場会社名 ワタミ株式会社

上場取引所 東

コード番号 7522 URL <https://www.watami.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 邦晃

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 小田 剛志

TEL 03-5737-2703

四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト・報道機関向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|--------|------|-------|---|------|---|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年3月期第2四半期 | 47,486 | 1.6 | 219 | | 156 | | 241 | |
| 29年3月期第2四半期 | 48,273 | 30.6 | 1,068 | | 926 | | 1,356 | |

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 691百万円 (%) 29年3月期第2四半期 2,232百万円 (%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年3月期第2四半期 | 6.18 | |
| 29年3月期第2四半期 | 34.68 | |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 30年3月期第2四半期 | 42,186 | 15,992 | 37.2 | 402.14 |
| 29年3月期 | 41,129 | 16,904 | 40.3 | 424.59 |

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 15,721百万円 29年3月期 16,599百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期 | | 0.00 | | 5.00 | 5.00 |
| 30年3月期 | | 0.00 | | | |
| 30年3月期(予想) | | | | 5.00 | 5.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|-----|------|-------|------|-----|-----------------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 96,000 | 4.3 | 500 | 173.6 | 750 | 4.4 | 100 | | 2.55 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 社 (社名)

除外 3 社 (社名)

和民餐飲(深セン)有限公司、
和民餐飲管理(上海)有限公
司、Watami China Food &
Beverage Company Limited

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|----------|--------------|--------|--------------|
| 30年3月期2Q | 41,686,780 株 | 29年3月期 | 41,686,780 株 |
|----------|--------------|--------|--------------|

期末自己株式数

| | | | |
|----------|-------------|--------|-------------|
| 30年3月期2Q | 2,593,314 株 | 29年3月期 | 2,592,803 株 |
|----------|-------------|--------|-------------|

期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 30年3月期2Q | 39,093,752 株 | 29年3月期2Q | 39,094,251 株 |
|----------|--------------|----------|--------------|

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 10 |
| (当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) | 10 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 12 |
| (会計方針の変更) | 12 |
| (会計上の見積りの変更) | 12 |
| (セグメント情報等) | 12 |
| 3. その他 | 14 |
| 継続企業の前提に関する重要事象等 | 14 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益の改善が進み、新興国の景気減速や英国の欧州連合からの離脱、米国経済の動向による日本経済への影響懸念など、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような環境下、「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになろう」というグループスローガンのもと、各事業分野においてお客様のありがとうを集める活動を展開してまいりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメント区分を変更しています。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

①国内外食事業

国内外食事業におきましては、12店舗の撤退を行い、当四半期連結会計期間末の店舗数は467店舗となりました。既存店売上高前年比は107.2%、既存店客数前年比は107.0%となっております。業態転換等による売上獲得施策と店舗オペレーションの改善等により、黒字化に向けた改善が進んでおります。

その結果、国内外食事業における売上高は23,496百万円(前年同期比104.6%)、セグメント損失は84百万円(前年同期は867百万円の損失)となりました。

②宅食事業

宅食事業におきましては、当四半期連結会計期間末の営業拠点数は517ヶ所となっております。9月の最終週における調理済み商品の平日1日あたりお届け数は235千食(前年同月最終週は231千食)となっております。広告宣伝投資が奏功したことにより調理済み商品のお届け数が前年を上回ったものの、広告宣伝費など一部先行投資分を回収するに至らず増収減益となっております。

その結果、宅食事業における売上高は18,922百万円(前年同期比102.7%)、セグメント利益は893百万円(前年同期比95.2%)となりました。

③海外外食事業

海外外食事業におきましては、1店舗の新規出店を実施いたしました。一方では9店舗の撤退を行い、当四半期連結会計期間末の店舗数78店舗(前年同期は91店舗)となりました。既存店売上高前年比は89.4%、既存店客数前年比は91.0%となっております。不採算店舗の撤退等による収益性改善に努めております。

その結果、海外外食事業における売上高は3,688百万円(前年同期比61.0%)、セグメント損失は61百万円(前年同期は108百万円の損失)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、Watami China Food & Beverage Company Limitedの株式を一部譲渡したことに伴い、同社及び同社の子会社である和民餐飲管理(上海)有限公司と和民餐飲(深圳)有限公司を連結の範囲から除外しております。

④環境事業

環境事業におきましては、電力小売事業を中心に展開しております。電力供給量の増加、卸電力取引市場の安定等の影響により、売上高は1,183百万円(前年同期比102.2%)、セグメント利益は26百万円(前年同期は0百万円の損失)となりました。

⑤農業

農業におきましては、有機農産物の生産、酪農畜産及び乳加工品製造を行っております。集荷量が前年同期比94.3%となり、売上高は195百万円(前年同期比97.0%)、セグメント損失は83百万円(前年同期は75百万円の損失)となりました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの成果は、国内外食事業、宅食事業及び海外外食事業における収益性改善に努めた結果、売上高47,486百万円(前年同期比98.3%)となり、営業損失は219百万円(前年同期は1,068百万円の損失)、経常利益は156百万円(前年同期は926百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は241百万円(前年同期は1,356百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末（以下「前期末」という。）比1,057百万円増加して42,186百万円となりました。流動資産は、借入金調達等による現金預金の増加等により前期末比1,287百万円増加の20,250百万円となりました。固定資産は、前期末比230百万円減少の21,935百万円となりました。固定資産のうち有形固定資産は、国内外の外食店舗設備等の償却等により前期末比124百万円減少の11,436百万円となりました。無形固定資産は、ソフトウェアの償却等により前期末比73百万円減少の1,170百万円となりました。投資その他の資産は、差入保証金の減少等により前期末比32百万円減少の9,328百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債の合計は、前期末比1,969百万円増加の26,193百万円となりました。流動負債は、借入金調達等により前期末比606百万円増加の15,661百万円、固定負債は、長期借入金の増加等により前期末比1,362百万円増加の10,532百万円となりました。このうち有利子負債（短期借入金、長期借入金及びリース債務の合計額）は、前期末比2,347百万円増加の12,281百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産の部は、利益剰余金の減少等により前期末比912百万円減少して、15,992百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月15日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日) |
|-------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 13,828 | 15,721 |
| 売掛金 | 2,410 | 1,866 |
| 商品及び製品 | 281 | 308 |
| 仕掛品 | 123 | 157 |
| 原材料及び貯蔵品 | 383 | 356 |
| 繰延税金資産 | 37 | 29 |
| その他 | 1,928 | 1,839 |
| 貸倒引当金 | △30 | △29 |
| 流動資産合計 | 18,963 | 20,250 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 7,931 | 7,778 |
| 機械装置及び運搬具 | 378 | 389 |
| 土地 | 562 | 548 |
| リース資産 | 2,145 | 2,259 |
| 建設仮勘定 | 74 | 23 |
| その他 | 468 | 437 |
| 有形固定資産合計 | 11,561 | 11,436 |
| 無形固定資産 | 1,244 | 1,170 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 67 | 405 |
| 差入保証金 | 7,785 | 7,446 |
| 繰延税金資産 | 141 | 111 |
| 投資固定資産 | 72 | 43 |
| その他 | 1,519 | 2,013 |
| 貸倒引当金 | △227 | △692 |
| 投資その他の資産合計 | 9,360 | 9,328 |
| 固定資産合計 | 22,166 | 21,935 |
| 資産合計 | 41,129 | 42,186 |

(単位:百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 3,345 | 2,938 |
| 短期借入金 | 4,114 | 4,847 |
| リース債務 | 1,089 | 1,150 |
| 未払金 | 2,045 | 2,493 |
| 未払法人税等 | 391 | 379 |
| 未払費用 | 2,694 | 2,582 |
| 賞与引当金 | 774 | 640 |
| 役員賞与引当金 | 9 | - |
| 販売促進引当金 | 49 | 57 |
| その他 | 540 | 572 |
| 流動負債合計 | 15,054 | 15,661 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 2,843 | 4,455 |
| リース債務 | 1,887 | 1,828 |
| 資産除去債務 | 3,184 | 3,041 |
| その他 | 1,254 | 1,207 |
| 固定負債合計 | 9,169 | 10,532 |
| 負債合計 | 24,224 | 26,193 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,410 | 4,410 |
| 資本剰余金 | 5,002 | 5,002 |
| 利益剰余金 | 10,612 | 10,175 |
| 自己株式 | △4,128 | △4,128 |
| 株主資本合計 | 15,897 | 15,459 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 10 | 12 |
| 為替換算調整勘定 | 690 | 249 |
| その他の包括利益累計額合計 | 701 | 261 |
| 新株予約権 | 248 | 223 |
| 非支配株主持分 | 57 | 47 |
| 純資産合計 | 16,904 | 15,992 |
| 負債純資産合計 | 41,129 | 42,186 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | 48,273 | 47,486 |
| 売上原価 | 20,069 | 20,269 |
| 売上総利益 | 28,203 | 27,217 |
| 販売費及び一般管理費 | 29,272 | 27,437 |
| 営業損失(△) | △1,068 | △219 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 8 | 17 |
| 設備賃貸収入 | 262 | 171 |
| 協賛金収入 | 124 | 94 |
| 助成金収入 | 29 | 40 |
| 雑収入 | 232 | 376 |
| 営業外収益合計 | 657 | 700 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 94 | 82 |
| 設備賃貸費用 | 256 | 166 |
| 持分法による投資損失 | 11 | 22 |
| 雑損失 | 152 | 52 |
| 営業外費用合計 | 514 | 323 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △926 | 156 |
| 特別利益 | | |
| 関係会社株式売却益 | - | 36 |
| 特別利益合計 | - | 36 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 41 | 103 |
| リース契約解約損 | - | 3 |
| 減損損失 | 258 | 106 |
| 特別損失合計 | 299 | 213 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △1,226 | △20 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 177 | 189 |
| 法人税等調整額 | △38 | 42 |
| 法人税等合計 | 139 | 231 |
| 四半期純損失(△) | △1,365 | △252 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △8 | △10 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △1,356 | △241 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 四半期純損失(△) | △1,365 | △252 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △2 | 1 |
| 為替換算調整勘定 | △859 | △524 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △6 | 82 |
| その他の包括利益合計 | △867 | △439 |
| 四半期包括利益 | △2,232 | △691 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △2,223 | △681 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △8 | △10 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日) |
|--------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △1,226 | △20 |
| 減価償却費 | 1,917 | 1,570 |
| 減損損失 | 258 | 106 |
| 関係会社株式売却損益(△は益) | - | △36 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | 228 | △120 |
| 販売促進引当金の増減額(△は減少) | △48 | 7 |
| 受取利息及び受取配当金 | △8 | △18 |
| 支払利息 | 94 | 82 |
| 固定資産除却損 | 41 | 103 |
| リース契約解約損 | - | 3 |
| 差入保証金償却額 | 35 | 21 |
| 預り金の増減額(△は減少) | △27 | △50 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 102 | 470 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 108 | △82 |
| 立替金の増減額(△は増加) | 165 | △81 |
| 未収入金の増減額(△は増加) | △57 | △19 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △452 | △243 |
| 未払金の増減額(△は減少) | △47 | 615 |
| 未払費用の増減額(△は減少) | △32 | △5 |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | △343 | △51 |
| その他 | △5 | 78 |
| 小計 | 703 | 2,332 |
| 利息及び配当金の受取額 | 5 | 13 |
| 利息の支払額 | △94 | △82 |
| 法人税等の支払額 | △1,865 | △309 |
| 法人税等の還付額 | 116 | 1 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △1,135 | 1,956 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △802 | △900 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 3 | 22 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △60 | △146 |
| 資産除去債務の履行による支出 | △209 | △48 |
| 定期預金の預入による支出 | △4,663 | △2,488 |
| 定期預金の払戻による収入 | - | 2,473 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △7 | △1 |
| 差入保証金の差入による支出 | △136 | △53 |
| 差入保証金の回収による収入 | 461 | 104 |
| 貸付けによる支出 | △53 | △26 |
| 貸付金の回収による収入 | 5 | 3 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出 | - | △198 |
| その他 | △56 | △91 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △5,518 | △1,353 |

(単位:百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日) |
|----------------------|---|---|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の返済による支出 | △710 | - |
| 長期借入れによる収入 | - | 4,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △1,823 | △1,654 |
| 自己株式の取得による支出 | △0 | △0 |
| 自己株式の処分による収入 | 0 | - |
| ファイナンス・リース債務の返済による支出 | △745 | △624 |
| 配当金の支払額 | △390 | △195 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △3,669 | 1,524 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △240 | △47 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △10,563 | 2,079 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 19,052 | 8,638 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 8,488 | 10,718 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

事業分離

(連結子会社の株式譲渡)

当社ならびに当社グループの海外事業統括会社であるWatami International Co., Ltd. (以下「WI」)は、HMV Cultural F&B Group limited (以下「HMVCFBグループ」)が100%出資する特別目的会社であるBeautiful Oriental Group limited (以下「BOG」)と合弁会社Watami China Food & Beverage Company Limited (以下「WCFB」)を設立し、WIの完全子会社である和民餐飲管理(上海)有限公司(以下「SH」)と和民餐飲(深圳)有限公司(以下「SZ」)の株式をWCFBに現物出資により移転したうえで、WIのWCFBに対する出資持分のうち60%をBOGへ譲渡いたしました。

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

- ①現物出資先企業の名称 WCFB
- ②株式譲渡先企業の名称 BOG

(2) 分離した事業の内容

WCFB、SH及びSZ(事業内容:飲食店の経営)

(3) 事業分離を行った主な理由

中国本土においては2005年深圳、2011年上海に事業子会社を設立、業態「和民」など日本食レストランの普及拡大を進め、33店舗(2016年12月末現在)を展開してまいりました。しかしながら、昨今の海外外食事業の事業環境の変化を踏まえ、さらなる事業拡大のうえでは、他社との提携が必要との判断に至りました。今回のパートナーとなるHMVCFBグループの親会社である海南航空グループの商業施設・空港施設など多数の集客力を有するインフラへの出店余地の拡大も見込めることから、既存店舗の収益性改善を図るとともに、中国及びアジア各地における日本食マーケットの拡大をともに推進できると考えております。

(4) 現物出資日及び株式譲渡日

現物出資日 平成28年12月20日

株式譲渡日 平成29年1月17日(みなし譲渡日 平成29年1月1日)

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

現物出資:SH株式及びSZ株式をWCFBへ現物出資

株式譲渡:受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

本件株式譲渡により、WCFBに対する当社の持分比率が100.0%から40.0%となったため、WCFBは連結子会社から持分法適用関連会社へ異動しております。

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

移転利益 36百万円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

| | |
|------|----------|
| 流動資産 | 1,042百万円 |
| 固定資産 | 482百万円 |
| 資産合計 | 1,524百万円 |
| 流動負債 | 530百万円 |
| 固定負債 | 113百万円 |
| 負債合計 | 643百万円 |

(3) 会計処理

受取対価を現金のみとする株式譲渡により、WCFB、SH及びSZに対する当社の持分比率が低下し、連結の範囲から除外したため、関係会社株式売却益36百万円を特別利益に計上しております。

当該持分比率の低下により、WCFBは当社の連結子会社から持分法適用関連会社となったため、WCFB、SH及びSZの貸借対照表を当社の四半期連結財務諸表から除外し、当社が保有するWCFB株式は持分法による評価額に修正しております。

これにより、WCFBの損益のうち当社グループ持分である40%を、SH及びSZについても、損益のうち当社グループ持分である40%を、持分法適用関連会社であるWCFBを通じて当社四半期連結決算に反映しております。

なお、WCFB、SH及びSZは平成29年1月をもって連結の範囲から除外しておりますが、WI、WCFB、SH及びSZの決算日は12月31日であり、四半期連結財務諸表の作成には同日現在の財務諸表（貸借対照表は平成29年3月31日現在、損益計算書は平成29年1月1日～平成29年3月31日）を使用しております。そのため、関係会社株式売却益は第1四半期連結累計期間において認識をしております。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメントの名称

海外外食事業

4. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

該当事項はありません。

5. 継続的関与の主な概要

当社及びWIは、平成29年9月30日現在、SHに対して497百万円を貸付しております。

また、WIはWCFBとの間で店舗運営及び開発等に係るフランチャイズ契約を締結しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|----------|--------|----------|-------|-----|--------|------|-----------------------|
| | 国内 外食 | 宅食 | 海外 外食 | 環境 | 農業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 22,447 | 18,420 | 6,045 | 1,157 | 201 | 48,273 | - | 48,273 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 26 | - | - | 287 | 196 | 510 | △510 | - |
| 計 | 22,474 | 18,420 | 6,045 | 1,445 | 398 | 48,783 | △510 | 48,273 |
| セグメント利益又は 損失(△) | △867 | 938 | △108 | △0 | △75 | △113 | △954 | △1,068 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|--------------------|--------|
| 報告セグメント計 | △113 |
| 全社費用(注) | △969 |
| その他の調整額 | 14 |
| 四半期連結損益計算書の営業損失(△) | △1,068 |

(注) 全社費用は、主にグループ全体の管理業務に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内外食事業」セグメントにおいて、撤退予定等の店舗資産に係る減損損失を122百万円、「海外外食事業」セグメントにおいて、撤退予定等の店舗資産に係る減損損失を102百万円、「環境事業」セグメントにおいて、投資の回収が見込めなくなった固定資産に係る減損損失を3百万円、「農業」セグメントにおいて、投資の回収が見込めなくなった固定資産に係る減損損失を30百万円をそれぞれ計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては258百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

記載すべき事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

記載すべき事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|----------|--------|----------|-------|-----|--------|------|-----------------------|
| | 国内 外食 | 宅食 | 海外 外食 | 環境 | 農業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 23,496 | 18,922 | 3,688 | 1,183 | 195 | 47,486 | - | 47,486 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 43 | - | - | 392 | 193 | 628 | △628 | - |
| 計 | 23,539 | 18,922 | 3,688 | 1,575 | 388 | 48,114 | △628 | 47,486 |
| セグメント利益又は 損失(△) | △84 | 893 | △61 | 26 | △83 | 690 | △910 | △219 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|--------------------|------|
| 報告セグメント計 | 690 |
| 全社費用(注) | △915 |
| その他の調整額 | 5 |
| 四半期連結損益計算書の営業損失(△) | △219 |

(注) 全社費用は、主にグループ全体の管理業務に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、グループ各事業の役割と責任の明確化を目的として組織運営体制を見直しました。これに合わせた管理区分の変更に伴い報告セグメントの区分方法を変更しています。従来「国内外食」セグメントに含めていた惣菜等の販売事業を「宅食」セグメントに含めております。また、従来「農業」セグメントに含めていたグループ内への卸売事業を「国内外食」及び「宅食」セグメントに含めております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成しています。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内外食事業」セグメントにおいて、撤退予定等の店舗資産に係る減損損失を55百万円、「宅食」セグメントにおいて、投資の回収が見込めなくなった固定資産に係る減損損失を4百万円、「海外外食事業」セグメントにおいて、撤退予定等の店舗資産に係る減損損失を32百万円、「農業」セグメントにおいて、投資の回収が見込めなくなった固定資産に係る減損損失を14百万円をそれぞれ計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては106百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

記載すべき事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

記載すべき事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において1,833百万円の親会社株主に帰属する当期純損失を計上しており、前々連結会計年度のワタミの介護株式の売却による特別利益15,126百万円を除くと4期連続の親会社株主に帰属する当期純損失を計上することとなりました。また、当社グループの主力事業である国内外食事業は、前連結会計年度においても221百万円の営業損失を計上し、4期連続の営業損失となっております。当第2四半期連結累計期間においては、241百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失、国内外食事業は84百万円の営業損失を計上しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、前連結会計年度において既存店売上高改善に大きく寄与した「ミライザカ」「三代目鳥メロ」への業態転換・看板変更を当連結会計年度に80店舗程度実施することにより、国内外食事業における既存店売上高を前年比100.7%とすることを計画しております。また、不振業態の立て直しによる新たな顧客層の取り込み、自社製造拠点である「手づくり厨房」のフル活用など原価低減取り組み策の強化に取り組んでおります。当第2四半期連結累計期間においては、103店舗の業態転換・看板変更を実施したこと等の効果により既存店売上高は前年比107.2%となり、「ミライザカ」「三代目鳥メロ」を中心に業績は回復傾向にあります。

海外外食事業においても、不採算店舗の整理、既存店舗の業態転換を進めるとともに、日本の本部との連携強化により、原価低減、店舗営業レベルの向上などグループ横断的な課題解決の体制を引き続き強化してまいります。

資金面では、現預金が借入金残高を上回る状況となっており、財務状況及び当面の資金繰りには懸念がないと判断しております。また、主要取引行の支援も継続して受けられる見込みであります。

現在、これらの対応策を進めているため、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。